

## 1. 授業の概要

社会学は、「社会」と「個人」の関わりを問う近代の学である。社会のなかで生ずるさまざまな現象や問題を、自分にかかわりのあるものとして把握し、考えること、そして、自分にまつわるさまざまな事象が社会との関係性のなかで生まれていることを把握し、考えることが社会学の基本的態度である。社会学に入門しようとするとき、二つの方法があり得るだろう。一つ目は、近代とは何であるのかという問題について社会学理論からアプローチを行う方法である。二つ目は、自分たちが実際に生活している中で、どのように社会とかかわりあっているのか、また近代とはどのような社会の性質であり、現在の生活とどのようにかかわっているのかという問いについてそれぞれの経験を振り返ることで「社会」と「個人」の関わりを実感することから始める方法である。この社会学 I の授業では後者の方法を採用し、担当者と受講生が社会学の基本的な視角を共有できることを目標として設定した。

社会学 I は、2 回生以上を対象とする教科科目である。カリキュラムではこの社会学 I を履修したのちに、3 回生以上を対象とする社会学 II、4 回生以上を対象とする社会学 III の履修ができる。つまり教育学部において社会学を履修する学生の入門科目という位置づけである。そのため、専門的な解説というよりは、学生になじみやすい話題を準備して、関連する社会学的基礎知識を提示していくという授業方針を定めた。入門者用のテキストである張江洋直・大谷栄一編『ソシオロジカル・スタディーズ—現代日本社会を分析する—』（世界思想社、2007 年）、奥村隆『社会学に何ができるか』（八千代出版、1997 年）、若林幹夫『社会学入門一歩手前』（NTT 出版、2007 年）等、複数の文献を参照して A4 で 2~4 枚のレジュメを作成し、毎回配布した。レジュメには入手可能なもの・グローバル化と普段よく耳にするけれど、いざ日本語で置き換えようとするとなかなか出てこなくて、ちゃんと言葉の意味が分かっていないのだなと思いました。この前ニュースを見ていてもカタカナが多くて意味がほとんど分からなかったのを教

の中で最新の図表を用いた。

授業のスケジュールは、以上の通りであった。

- ① イントロダクション
- ② 「近代」をみる社会学
- ③ 「近代」をみる社会学(続き)
- ④ 「現代」をみる社会学
- ⑤ 自己・アイデンティティ・役割
- ⑥ 自己・アイデンティティ・役割(続き)
- ⑦ 「恋するあなた」の社会学
- ⑧ 現代社会と社会的性格
- ⑨ 現代社会と社会的性格(続き)
- ⑩ 学校の社会学
- ⑪ 仕事の社会学
- ⑫ 現代家族の社会学
- ⑬ インターネットの社会学
- ⑭ グローバリゼーションの社会学
- ⑮ まとめのワークと討論

## 2. 授業評価の方法

2010 年度の本授業は、履修者数 34 名であり、社会科教育専修、人間社会デザインコース、教育心理学専修、情報教育コース、スポーツ指導者養成コース、国際理解教育コースの学生によって構成されている。授業開始時に出席を確認し、授業終了 10 分前をめどにコメントペーパーを配布して、受講生の理解度を把握することに努めた。これにより、遅刻者のチェックも厳密に行うことができた。実質の履修者は 32 名であり、毎回の出席率は 91 パーセント~69 パーセントであった。

授業評価について、自由記述方法で学生に意見やコメントを書くように A5 の様式(記名式)を配布した。第 14 回「グローバリゼーションの社会学」の授業時(2011 年 2 月 9 日 1 時限目)にこの記名式授業評価を実施した。出席した学生による記述を以下列記する。

## 3. 授業アンケートの結果

養レベルの知識を持っていないのは恥ずかしいと思っていたばかりなので、これから調べるくせをつけたいです。松山に来てからマクドナルドに行くことはほとんどなくなったけど、スタバだったりアイスだったり、ケンタッキーだったり、知

らず知らずのうちにグローバル化された社会で生活しているのだということに改めて気づかされました。

・グローバル化社会の話からナショナリズムの話に入り、さらには世界における食糧問題や水問題、労働者問題にまで話が転じていくことに驚きました。私たちが安くて良いとしているものを買ったり、使ったりすることで、イコールそれが重要(需要が大きい)としてとらえられ、より多くの低賃金労働者が現地の貧しい人が増加すると考えると、これからの自分たちの行動を見直すべきであると実感させられます

島までマックに関するマイナス面のエピソードをいくつか聞いてきましたが、今回の話が最も印象深かったです。

・グローバル化のマイナスの側面というのは多少知っているつもりであったが、予想以上に多くの影響があり、驚いた。

・グローバリゼーションの定義は、今までやんわりつかんでいるようなないようなあいまいな感じだったので、今日の講義でようやくしっかり知ることができた。

・90年生まれの私たちはたしかに、マックとかスタバとか、そういった文化は享受しているが、環境だけどんどんグローバル化していき、人間の中身自体はそれほど変化しておらず、グローバル化についていけない気がした。(英語も全くしゃべれませんし…)

・スローフードという「食」というものを見直していき、ファーストフードからの食文化破壊を防ぐ取り組みは、経済的にも、身体的にも、良い取り組みだと思えます。

・生活している身近なところでも、グローバル化していることがよくわかった。普段なにげなく食べているものや来ている服を意識してみると、国内産のものは少ないと思う。文化を共通することは国際理解のうえでは大切なことだと思うが、文化帝国主義のようにその国に元々ある文化を支配していくのはよくないと思う。互いの文化の良さを認めつつ共有していくことが大切である。

・グローバリゼーションという社会的事象の背景には、数多くの問題が複雑に絡み合っているとい

うことが分かった。私たちの食べているものや来ているもの、それが誰の手によって、どのようにしてつくられ、どのようにしていきついたのかを考えると、どこかこわさを感じるものである。

・グローバル化によって、社会のあり方は大きく変わったのだと思いました。グローバル化によって、世界が同じようなシステムのもとに組み込まれていって多くの利点や発展があったが、それとは反対に問題点があったことが分かりました。先進国においては多くの利点があったかもしれないが、途上国にとっては問題を引き起こしたのだと思いました。でもやはり、グローバル化した今の世界のほうがいいと私は思います。

・授業の中で出てきたマクドナルド化したアメリカの授業には驚きました。また私たちはネズミであるミッキーやミニーをかわいいと思っているので、グローバリゼーションによる文化の植民地化ってすごいなと思いました。

・今日、グローバル化について講義をうけて、「グローバル化」という単語のイメージが変わった。グローバル化は、なんとなく人・モノの文化の交流的なものであまり悪い感じがしなかったが、経済的に見たときにグローバル化をよいものとはあまり思えなかった。人類の今までの発展が利便性や効率を求めた結果であると考え、グローバル化の一側面である果樹洗いぜーしょんや超国籍企業の存在も同じような流れでできたものとする。しかし効率や合理性をどこまで自由に求めるか考えなければ他者に影響をきたし、とりもどせなくなるモノもでてくる。

・グローバリゼーションと聞くと、なかなか自分を世界とむすびつけて考えることは難しい。けれど食という視点からグローバリゼーションを考えると、むしろ世界とつながっていなければ私たちの食生活は成り立たないほどであると思いました。今朝のニュースで、寒波の影響を受けた食品の値上がりが報道されていました。九州では火山灰の影響も…。今日のお話にもあった安さ一番のマクドナルド、二歩なの中で今後どのように“食べて”いけばよいのかな…今そんなことを考えています。